

# 黒船来航の現場で取材した記者として新聞記事を書こう

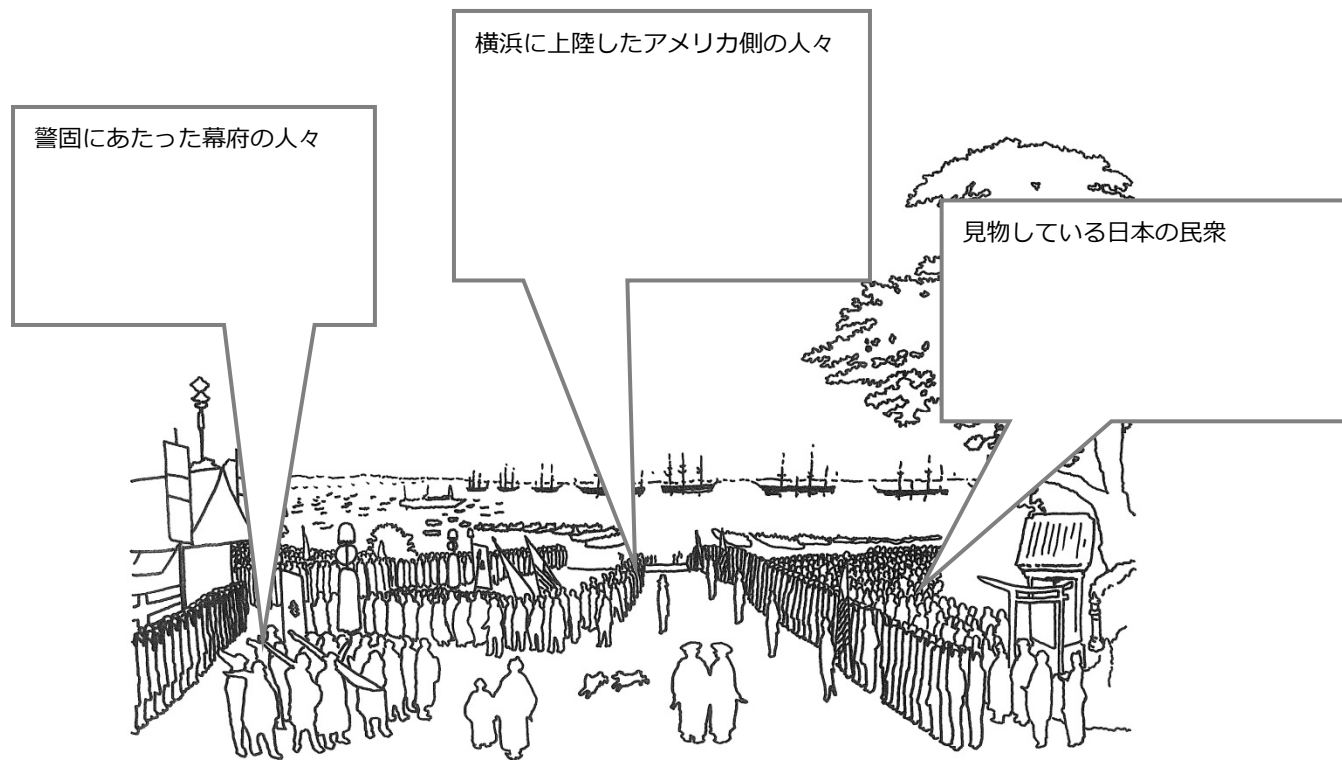
～徳川幕府は黒船にどう対応したのか！？～

① あなたはどっち？ どちらかに○をつけよう。



- ・ 黒船を今まで通り、立ち去らせるべし！
- ・ そろそろ「鎖国」をやめて受け入れよう！

② 当時の人々はどのようなことを思っていたのだろうか。下の絵に吹き出しを入れて書き込もう！



③ アメリカはなぜ日本に開国を求めたのだろうか。ペリーが幕府に届けた国書の内容を見て考えよう！

### —アメリカ大統領の国書—

1. 日米の友好をはかり、通商をしよう。
2. 日本近辺でアメリカの捕鯨船が難破したら日本が保護してください。
3. アメリカ船が日本に来たら、石炭・食料・水を補給してください。

日本は開国しなさい！



どうして日本に開国を求めたのかな？  
左の資料から読み取ろう。

- ・
- ・

④ 幕府の対応はどうだったのだろうか。下の資料をもとに考えよう！

### 日米和親条約 1854年 調印

- 第2条 [開港] 伊豆（静岡県）の下田と松前（北海道）の函館の2港は、アメリカ船が薪・水・食料・石炭などの不足する品物を買う目的に限り、来航を許す。
- 第3～8条 [漂流民の保護と滞在、石炭などの補給許可]
- 第9条 [最恵国待遇] 日本が、アメリカ以外の外国に対して、現在アメリカに許していないことを許すときは、ただちにアメリカにも同じように許すこと。

蒸気（スチーム）の力は世界の様子をすっかり変えてしまった。日本は鎖国をやめるべきだ。18年前、中国はイギリスと戦争をした。負けた中国は港をイギリスに明け渡し、領土も取られた。

今、イギリスはまた中国に戦争を仕掛けようとしている。やがて、日本人が見たこともないほどの軍艦を率いて日本にやってくるのだ。その時になってからでは遅い。今、この私と条約を結びなさい。



初代駐日アメリカ総領事  
ハリス

### 日米修好通商条約 1858年 調印

- 第1条 [外交官の任命] 日本はワシントンに居留する外交官を任命する。アメリカは江戸に居留する外交官を任命する。
- 第3条 [開港・開市] 下田・函館以外に次の場所を開く。神奈川 長崎 新潟 兵庫  
神奈川開港後6か月したら、下田は閉鎖する。以上の開港地に、アメリカ人は住むことができる。  
江戸 大阪 この2か所は、アメリカ人が商売をする間だけ滞在することができる。
- 第4条 [協定関税制] 日本に輸出入の品物については、別冊の通り、日本の役所に関税を納めること。 [別冊] 日米が協定しないと関税は決められない。
- 第5条 [貨幣の通用] 外国の貨幣は日本の貨幣と同種類、同量(重さ)で通用する。
- 第6条 [領事裁判権(治外法権)] 日本人に罪を犯したアメリカ人は、アメリカ領事裁判所で取り調べの上、アメリカの法律によって罰すること。アメリカ人に罪を犯した日本人は、日本の役人が取り調べ、日本の法律で罰すること。

○ 日米修好通商条約は日本にとってどんな内容だったのだろうか。アメリカと平等だったのかな？

日米修好通商条約は日本にとって、 平等 / 不平等 であった。

理由は以下の2つ。

- ・ 日本は輸入品にかかる (①) を自国で決めることができない = (②) がない。
- ・ 日本で罪を犯したアメリカ人を日本が裁くことができない = アメリカに (③) を認めた

⑤ 幕府の対応に人々は何を思ったのだろうか。当時の人々の中には、幕府の対応に不満を持つ人もいた・・・！



吉田松陰（長州）

3000年も独立を続けてきた日本が外国人に従うなど、血の通った者として見ておれん。ナポレオンを立たせたように、自由を唱えなくては腹のもだえはおさまらん。幕府も大名もやらないというのなら、武士や農民がやるしかない！

攘夷ということは、どんな国でも、一度はやらねばならん。アメリカがイギリスから独立したのも攘夷である。すべて攘夷をやって、しかるのちに万国と対等に交際できるのだ！ 攘夷:外国人を打ち払い入国を拒もうという主張



高杉晋作（長州）

一方、幕府を支持する意見も・・・



島津斉彬（薩摩）

わが国は、大砲や軍艦などの海防の備えが不十分であるため、戦いをさけてこの条約を締結すべきである。日本を守るためには「人の和」を大切にしなければならない。

⑥ あなたが当時の新聞記者だったら、どのような意見をもつだろう。今まで学んだことをもとに、条件にあわせて新聞の記事を書こう。

【後半：日本が条約を結んだことに賛成か反対か】  
思考B評価→歴史的な事柄を根拠に理由が書けている

【前半：ペリー艦隊横浜上陸の様子】  
資料B評価→3つの内容が入っている

新聞社説

ペリー提督の隊列が横浜に上陸した。

あれから四年が過ぎた。我が国は今、二つの条約をアメリカと結んだが、これは日本にとって  
・素晴らしいことである。 ・良い状況とはいえない。  
なぜなら、